

生産性向上支援訓練のご案内

生産性向上支援訓練とは

企業が生産性を向上させるために必要な知識などを習得する職業訓練です。ポリテクセンター秋田では、専門的知見を有する民間機関等と連携して、企業が抱える課題や人材育成ニーズに対応した訓練を実施します。



独立行政法人
高齢・障害・求職者雇用支援機構秋田支部

秋田職業能力開発促進センター
(ポリテクセンター秋田)

〒010-0101

秋田県潟上市天王字上北野4-143

【お問い合わせ先】生産性センター業務課

電話018-873-8036

E-mail:akita-seisan@jeed.go.jp



生産性向上支援訓練の内容

生産管理、IoT・クラウド活用、組織マネジメント、マーケティング、データ活用などあらゆる産業分野の生産性向上に効果的なカリキュラムにより、企業が生産性を向上させるために必要な知識・スキルを習得する職業訓練で、オープンコースとオーダーコースを専門的知見を有する民間教育機関等に委託して実施しています。

- オープンコース: 広く受講者を募集する公開型のコース(年間40コース程度計画)
- オーダーコース: 個別企業・事業主団体の課題に対応したカリキュラムをカスタマイズして実施するコース

主な訓練分野・コース

業務改善に向けた課題例

訓練コースの対応カテゴリー

生産・業務プロセスの改善

工程管理のポイントや見直し及び改善を行う際の課題とその解決方法など、生産管理や生産現場の業務プロセスの改善に必要な知識や手法の習得を主な目的としています。

- ・現場の課題を発見し、改善する方法を学びたい。
- ・RPAを活用して業務を自動化したい。
- ・テレワークを導入し業務を効率化したい。

【生産・業務プロセスの改善】

- ・生産現場の問題解決
- ・実践RPA活用
- ・テレワークを活用した業務効率化 など

横断的課題

既存の業務の効率化や業務の改善、あるいは70歳以上の就業機会の確保に向けて中高年齢者の役割の変化への対応やノウハウ継承に必要な知識や手法の習得を主な目的としています。

- ・従業員の仕事の効率化を促進したい。
- ・リスクを低減させる方法を学びたい。

【組織マネジメント】

- ・組織力強化のための管理
- ・業務効率向上のための時間管理 など

- ・役割の変化への対応を学ばせたい。
- ・ベテラン従業員に指導の手法を学ばせたい。指導スキルを向上させたい。

【生涯キャリア形成】

- ・後輩指導力の強化と中堅・ベテラン従業員の役割
- ・効果的なOJTを実施するための指導法 など

売上げ増加

マーケティングや広報戦略、新商品の企画・開発やサービスの高付加価値化を実現するために必要となる知識や手法の取得を主な目的としています。

- ・顧客満足度の向上を図りたい。
- ・消費者の動向を営業に活用したい。
- ・インターネットを活用して販売促進を図りたい。

【売上げ増加】

- ・マーケティング志向の営業活動の分析と改善
- ・提案型営業手法/実践 など

IT業務改善

生産性を向上させるための手段としてITを活用する上で必要となるネットワーク、データ活用、情報発信、情報倫理・セキュリティに関する知識・手法の習得を主な目的としています。

- ・データ集計の作業を効率化したい。
- ・マクロを使って定型業務を自動化したい。
- ・集客につながるHPを作成したい。

【IT業務改善】

- ・表計算ソフトのマクロによる定型業務の自動化
- ・集客につなげるホームページ作成 など

生産性向上支援訓練には訓練分野ごとにカリキュラムモデルがあります。研修計画の作成にお役立てください。ポリテクセンター秋田ホームページからご覧いただくことが可能です。

◇DX人材の育成にもご活用ください！

生産性向上の「ヒント」が学べます



現在、社会環境・ビジネス環境の変化に対応すべく、企業・組織を中心に社会全体のDX(デジタルトランスフォーメーション)が進んでいます。これに対応するためには、年代・職種を問わず、働き手一人ひとりがDXに参画し、デジタル技術を活用したプロセスの改善や、デジタルを活用しやすい組織づくりに取り組むことが重要となります。生産性向上支援訓練ではカリキュラムモデルの中から「DX対応コース」を選定し、中小企業・事業主団体等の“DX人材の育成”を支援しています。

オープンコース受講の流れ

◇訓練実施場所

次の各地域で開催予定
【県央地域：潟上市】
（ポリテクセンター秋田）
【県北地域：大館市】
（ポリテクカレッジ秋田）
【県央沿岸地域：由利本荘市】
【県南地域：大仙市、横手市】

◇訓練日数(時間数)

1日(6時間)を基本に設定
※IT業務改善分野は2日間
(12時間)コースも設定

◇実施定員

定員15名を基本に設定
※IT業務改善分野は10～12名
で設定

◇受講料(1人当たり・税込)

IT業務改善:6時間コース 2,200円 12時間コース 3,300円
IT業務改善以外:6時間コース 3,300円

受講コースの決定

ホームページ、募集リーフレットから受講希望コース
をお選びください。

受講申込

受講申込書にご記入の上、FAXまたはメールでお申
し込みください。

訓練受講

所定の期日までに受講料の納付等の手続を済ませて、
訓練を受講してください。

他社の従業員と一緒に受講したことで、「自社の強みや課題の気づきにつながった」等のご意見をいただいております。
実施日程はポリテクセンター秋田のホームページまたは募集リーフレットをご確認ください。



オーダーコース受講の流れ

◇訓練実施場所

受講を希望する個別企業、事業
主団体等でご準備ください。

◇訓練日数(時間数)

いずれの訓練分野も1～3日
(6～18時間)の範囲で設定
が可能です。

◇実施定員

いずれの訓練分野も受講者
10名以上からご利用いただけ
ます。

◇受講料(1人当たり・税込)

IT業務改善:6時間コース 2,200円 12時間コース 3,300円 18時間コース 4,400円
IT業務改善以外:6時間コース 3,300円 12時間コース 5,500円 18時間コース 6,600円

課題や方策の整理

センター担当者が貴社を訪問し、人材育成に関する課
題や方策についてお伺いします。

訓練コースの コーディネート

相談内容を踏まえて、企業等の課題やニーズに応じた
訓練コースをご提案します。

訓練受講

利用申込書を提出後、所定の期日までに受講料の納付
等の手続を済ませて、訓練を受講していただきます。

ポリテクセンターでは「利用申込書」に基づき、希望された訓練コースや日程で担当可能な講師(訓練実施機関)の選定を進めます。
担当講師、オーダー企業等、ポリテクセンターの3者で訓練カリキュラムの調整や事務手続きのスケジュールを確認するための打合せを実施します。



eラーニングで受講できる生産性向上支援訓練 ご存じですか？

サブスクリプション型生産性向上支援訓練

企業が従業員に対して実施する研修・教育訓練については、従業員のすき間時間に訓練を受講させたい、オンラインで効率的に訓練を実施したい、といったニーズが寄せられています。

eラーニング形式により複数の訓練を定額で受講できる「サブスクリプション型生産性向上支援訓練」(通称：サブスク型訓練)を令和5年度から実施しています。詳しくはホームページをご覧ください。

DX人材の育成を支援する DX対応コース

生産性向上支援訓練カリキュラムモデルの中から、DXの推進に資する人材育成を支援する訓練コースをDX対応コースとして設定しています。DX対応コースでは、生産性向上支援訓練の訓練分野や訓練目的とは別に、DX推進に向けたスタートコース、企業のデジタル化を下支えするネットワーク・セキュリティに関するコースを選定し、共通領域として設定しました。また、DXに向けた3つの課題を設定し、それぞれの課題解決に対応したコースを選定・分類しています。※訓練コース名に付した3桁の数字はカリキュラムモデルの番号に対応しています。

共通領域

DX推進に向けたスタートコース(4コース)

☆DXの推進による企業変革の有用性を理解し、DX推進のポイントを習得したい

- | | |
|----------------|------------------|
| 119 DXの推進 | 117 DXの導入 |
| 126 DX人材育成の進め方 | 129 製造分野におけるDX推進 |

ネットワーク・セキュリティに関するコース(8コース)

☆ネットワーク活用、データ活用、情報発信の方法を習得したい
☆倫理・セキュリティについて理解したい

- 021 IoT導入に係る情報セキュリティ
- 040 eビジネスにおけるリーガルリスク
- 057 ネット炎上時のトラブル対応
- 098 ワイヤレス環境に必要となる無線LANセキュリティ

- 099 社内ネットワークに役立つ管理手法
- 115 脅威情報とセキュリティ対策
- 116 情報漏えいの原因と対応・対策
- 125 テレワークに対応したセキュリティ対策



3つの課題

デジタル化と新しい生活様式の課題対応(19コース)

☆自社業務に適切なITツールを選定したい
☆RPAを活用して業務の効率化を図りたい

☆POSシステムを活用して売り上げを伸ばしたい
☆データ集計・分析を効率的に行いたい など

- 009 POSシステムの活用技術
- 056 ITツールを活用した業務改善
- 091 企業内でIT活用を推進するために必要な技術理解
- 092 企業内でIT活用を推進するために必要なマネジメント
- 095 ビッグデータ活用
- 055 RPAを活用した業務効率化・コスト削減
- 096 RPA活用
- 083 テレワークを活用した業務効率化
- 088 テレワーク活用

- 120 データサイエンス入門
- 130 経理業務の効率化につながるDXの実践
- 122 テレワーク業務における労務管理
- 123 オンライン営業技術
- 103 効率よく分析するためのデータ集計
- 104 ピボットテーブルを活用したデータ分析
- 105 品質管理に役立つグラフ活用
- 106 表計算ソフトを活用した統計データ解析
- 114 SNSを活用した情報発信
- 124 オンラインプレゼンテーション技術

業務プロセスの課題への対応(23コース)

☆システム化に伴うコストの考え方を知りたい
☆物流全体の最適化・効率化を実現したい

☆クラウドを活用した業務展開、システム導入を検討したい
☆データベースを活用してデータ処理を効率化したい など

- 007 在庫管理システムの導入
- 016 物流のIT化
- 013 流通システム設計
- 014 物流システム設計
- 012 卸売業・サービス業の販売戦略
- 018 クラウド活用入門
- 020 クラウドを活用したシステム導入
- 054 クラウドを活用した情報共有能力の拡充
- 093 IT新技術による業務改善
- 094 AI(人工知能)活用
- 090 失敗しない社内システム導入
- 107 表計算ソフトのマクロによる定型業務の自動化

- 087 導入コストを抑えるクラウド会計・モバイルPOSレジ活用
- 027 マーケティング志向の営業活動の分析と改善
- 028 統計データ解析とコンセプトメイキング
- 046 インターネットマーケティングの活用
- 036 プロモーションとチャネル戦略
- 047 チャンスをつかむインターネットビジネス
- 029 顧客分析手法
- 045 顧客満足度向上のためのCS調査とデータ分析
- 108 データベースを活用したデータ処理(基本編)
- 109 データベースを活用したデータ処理(応用編)
- 110 データベースを活用した高度なデータ処理

ビジネスモデルの課題への対応(7コース)

☆IoTによるビジネス環境の変化や動向を知りたい

☆システム開発に必要な発注者の役割を理解したい など

- 015 3PLとSCM
- 017 SCMの現状と将来展望
- 019 IoT活用によるビジネス展開
- 089 データ活用で進める業務連携

- 118 ベンダーマネジメント力の向上
- 022 IoTを活用したビジネスモデル
- 121 ビジネスとSDGs(持続可能な開発目標)の融合